

だいきく通信 第二十五号 「春の号」

ひまわり

日頃より当神社での神明奉仕にご協力を賜り、ありがとうございます。

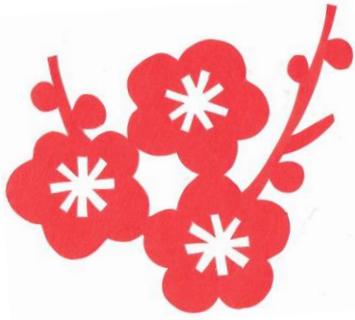
今年の三が日はいつになく暖かで、当神社の境内にも大勢のかたにお運びいただき、大変にぎわいました。何かと落ち着かない出来事の多い昨今、今年が穏やかな年であるようお願いわずにおれません。

社報「だいきく通信」の第二十五号をお届けいたします。

今回の内容は催し物のご案内、神社にまつわる豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」、そして、オリジナル・キャラクターが活躍する連載まんがなどです。

本年もなにとぞよろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

大國神社 宮司 大島資生



大國神社の今

(1) 「第五回だいきく落語会」を開催します

昨年五月に引き続き、古今亭菊乃丞師匠をお迎えして第五回だいきく落語会を開催することとなりました。今回も、江戸情緒あふれる巧みな話芸をお楽しみいただければ幸いです。

※(三月十日) お蔭様をもちまして、満席となりました。



〔催事詳細〕
第五回だいきく落語会

古今亭菊之丞落語会



日 埴 合

お蔭様をもちまして

満席となりました

場

ただき
定員に
了承く

古今亭菊之丞プロフィール

昭和四十七年十月生まれ 平成三年 古今亭圓菊に入門、平成六年二
ツ目昇進、平成十五年 真打昇進。平成十年 北とびあ若手落語家競演
会北とびあ大賞、平成十三年 市川市民文化賞奨励賞、平成十四年 N
HK 新人演芸大賞落語部門大賞、平成二十年、二十一年、二十三年国
立演芸場花形演芸会金賞。平成二十四年度芸術選奨文部科学大臣賞新
人賞、落語協会所属。希望郷いわて文化大使。CD「古今亭菊之丞名
演集1〜5」、DVD「古今亭菊之丞落語集 明烏／二番煎じ」「古今
亭菊之丞 落語集 景清／酢豆腐」ほか多数。著書『こういう了見』
(WAVE出版)

(2) 第二回だいきくクラシックスを開催します
前号で予告しました通り、昨年十月に引き続き、第二回だいきくクラシックスを開催します。

・第二回だいきくクラシックス

小林久美ヴァイオリン・リサイタル
十月 二日(日) 午後三時より

今回も小林久美さん(東京都交響楽団)をお迎えしてヴァイ
オリン・リサイタルを開催します。お申し込みの詳細について
は、改めてご案内いたします。どうぞご期待ください。

お宮あれこれ〜暦と二十四節気〜

テレビやラジオの気象情報などで「今日は暦の上では立春
です」といったことが聞かれることがよくあります。今回は
暦にまつわるお話として、「二十四節気」を取り上げます。

「暦(こよみ)」という言葉は「日(か)読み」から来てい
るとされます。この場合の「読む」は古い使い方で、「数え
る」という意味を表わしています(「サバを読む」などという
言いかたに残っています)。つまり、「日を数える」ためのも
のという意味です。

さて、古代文明としてよく知られているのはエジプト、メソ
ポタミア、インド、中国の四つの文明です

が、文明の発達の背景には必ず農耕がありました。
した。そして、効果的に耕作を行なっていく
必要から、どの地域においても暦を用いてい





ました。このうち、中国の暦では、「二十四節気」を用いて閏年を調整するという方法をとりました。

もともと中国は月の動きにもとづく太陰暦を用いていました。しかし、太陰暦は四季の移り変わりとは合わないため、農耕等に不便です。そこで、太陽の動きにもとづく「二十四節気」が導入されました。そして、月の動きとのずれが一月になったところで閏月を入れて調整するようにしたのです。

「二十四節気」とは、一年を太陽の見かけの位置によって二十四等分し、その位置に太陽が来る日に、季節に応じた名まえをつけたものです。二十四の日は次のように、「節気」と「中気」に分かれています。

「節気」 立春・啓蟄・清明・立夏・芒種・小暑・立秋
・白露・寒露・立冬・大雪・小寒
「中気」 雨水・春分・穀雨・小満・夏至・大暑・処暑
・秋分・霜降・小雪・冬至・大寒

二十四節気の仕組みについて少し見てみましょう。まず、昼・夜がそれぞれ最も長くなるのが「夏至・冬至」、昼・夜の長さがほぼ同じになるのが「春分・秋分」です。この四つを合わせて「二至二分（にしにぶん）」と呼びます。ウェブサイトで「こよみのページ」によれば、「二至二分」のうち、たとえば冬の真ん中が「冬至」、春の真ん中が「春分」と考えると、そのちょうど中央が冬と春の境目ということになります。そこで、「ここから春が始まる」という意味で「立春」が定めら

れ、ほかの季節についても同じように始まりの日が決まったのではないかとのことです (<http://koyomi8.com/>)。「立春・立夏・立秋・立冬」を「四立（しりゅう）」と呼びます。「四立」は暦の上での計算によって定められているものなので、「立春」といっても実際には寒さのピークのころになっており、体感気温とは合わないのです。ちなみに、「節分」というのは本来「季節の分かれ目」という意味で、四立の前の日のことでした。したがって、本当は年に四回あるのですが、現在はもっぱら立春の前日を言うようになっていきます。「二至二分」と「四立」を合わせて「八節（はっせつ）」と呼びます。

二十四節気はこの「八節」を軸として、その間に季節ごとの動植物や気象の特徴を示すことばが配されています。二十四節気は昔から変わることなくわたくしたちを照らしている太陽の動きにもとづくものです。最近では季節外れの陽気も多いようですが、折に触れ、暦に記された季節感を思い出してみてはいかがでしょうか。

祭礼・祈禱などのご案内

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは次ページの電話番号もしくはメールにてお願いいたします。不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話してください。のちほどこちらからご連絡いたします。

○諸祈禱受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈禱を行なっております。祈禱日時については、お電話にてご相談ください。

(連載まんが)

大吉うさぎ ～神様のひみつ?～

くまこまち 作



〈お問い合わせ・お申し込み〉

〇三二二九一八七九三〇(携帯) 〇八〇一一九八七二一六

eメール daikokujinja@gmail.com

〇次回甲子祭

平成二十八年四月十二日(火) 午前五時～正午

〇開運千人講祈禱祭 毎月一日 午前六時～正午まで



次号発行予定

「だいこく通信第二十五号」、いかがでしたか。次号「夏の号」は、六月十一日の甲子祭に発行予定です。

「だいこく通信」第二十五号 平成二十八年二月十二日発行

編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇一〇〇〇三 東京都豊島区駒込三二二一十一

<http://www.daikokujinja.org>

